

市総合防災訓練

震度7想定し900人が参加

11月7日、市総合防災訓練が陸上自衛隊松山駐屯地(小野訓練場)で行われ、地元住民・自主防災組織・関係機関など約900人が参加しました。訓練は午前9時ごろ、南



バケツリレーで初期消火訓練

海トラフを震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、市内で震度7を観測。家屋倒壊などの被害が小野地区各所で発生し、ライフライン寸断など、市民生活が大きく混乱しているとの想定で実施。

参加者は協力・連携しながら、消火、救出救助、避難者の受け入れなど応急対策訓練を行いました。また、体験・啓発ブースではAED救命講習や炊き出し訓練、地震体験車体験などを通して、多くの人が防災意識を深めていきました。訓練終了後、野志市長は「各機関相互の連携や住民の皆さんにも実践的な訓練を体験していただくことが



AEDの使い方を学ぶ参加者

でき、「いざ」というときに適切な行動につながる実りの多い訓練でした。今後とも防災対策や訓練への参加を願います」と述べました。 危険管理課 ☎9486794・FAX 9341813



小野地区自主防災組織連合会会長 仙波 修さん

この訓練への参加は、非常によい経験になりました。今後も地域の防災意識を高める取り組みを行っていきます。



小野地区女性防火クラブ連合会会長 一色 美咲さん

炊き出し訓練を担当しました。今回の実践的な訓練を生かし、災害時の冷静な判断・対応につなげていきたいです。

愛媛大学で防災リーダークラブを結成

学生の力で地域防災を強化

防災スキルを身に付けた大学生を養成しようと、愛媛大学と市消防局が連携し、大学生で組織する防災リーダークラブが10月21日に結成されました。メンバーは9月に集中講



決意表明する今西さん

義などで、防災士の資格を取得した103人で構成。代表として同大大学院の今西桃子さんが「地域の防災リーダーとして活躍できる人材になることを誓います」と決意を述べました。来年度は大学内で防災マネジメントなど、危機管理に関するより専門的な知識を学びながら、小中学校などでの防災教育など地域防災活動に参加し、防災スキルのさらなる向上に取り組み予定。彼らが将来、松山で就職し地域防災のけん引役として活躍することで、地域防災の活性化と若返りに期待がかかります。

消防地域防災課 ☎9269218・FAX 9269189

市戦争犠牲者追悼式などを開催

戦争のない世の中を誓う

戦後70年を迎え、戦争の犠牲となった市民の追悼と平和の大切さを再認識する事業を相次いで開催しました。10月15日には総合コミュニ



資料展の様子

ニティセンターで市戦争犠牲者追悼式を開催、約350人が参列しました。追悼式で野志市長は「戦争の教訓を後世に伝え、辛く悲しい体験を繰り返さないよう、恒久平和の実現に向けて努力する」と述べました。その後、参列者が献花し、約8千人ともいわれる本市戦争犠牲者を追悼しました。また、10月18日には総合コミュニニティセンターで、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える「平和のつどい」が開催され、平和の語り部と平和の子ども大使による平和シンポジウムなどを実施しました。シンポジウムでは、平和の語り部と子ども大使に任命された高浜中学校の生徒らが平和の語り部とティスカッションするとともに、広島市の中学生との交流や平和記念公園などへの訪問について報告。また「いじ

めを無くすなど何気ないことからでも平和はつくれる。自分が生きていること、これも平和の象徴」と、自分たちで作った平和の誓いを宣言しました。 その他、総合コミュニニティセンターでは広島市の協力を得て、原爆関連の資料など、戦争遺品を展示する資料展も開催され、訪れた人は平和の尊さを改めて実感していました。 市民参画まちづくり課 ☎9486814・FAX 9343157



平和のつどいの様子

市長と話そう! タウンミーティング



地域の課題について意見交換

10月25日、中島地区の活性化について「移住・定住の促進と受け入れ体制の充実」をテーマに中島支所でタウンミーティングが行われました。

参加者からは「移住・定住の促進に、地元のことをよく知る人の力を生かす方法を考えてみてはどうか」「中島の廃校となった施設を活用して、IT企業などを誘致できないか」などさまざまな意見が挙がりました。

野志市長は「お試し移住施設として運用をはじめた「神浦定住促進住宅」や「空き家バンク」などの取り組みを紹介しながら「皆さんの意見を今後の施策に反映させたい」と応えました。



地区総代理 睦月 義秀さん

地域住民と市長・担当者が直接対話できる有意義な時間でした。中島への移住・定住について、さまざまな方法を検討してほしいです。

野志市長は「中島は後継者難なので都会から農業をしたい人に継いでもらい、中島の農業を守っていききたい」と述べました。 ■意見・要望 ●中島は後継者難なので都会から農業をしたい人に継いでもらい、中島の農業を守っていききたい ■感想 ●島の人と移住希望の人とのマッチングが重要だと感じた。 町長と話そう! タウンミーティング課 ☎9486333・FAX 9342336

平成27年度松山愛郷会 会員を「まつやま応援大使」に任命

関東地区在住の松山出身者などで構成する松山愛郷会の総会と懇親会が10月22日、東京都で開催されました。会に出席した野志市長はあいさつで、松山の中心市街地再開発事業など、最近の市政の様子を、スクリーンを用いて説明。その後の懇親会で参加者は松山の思い出話などに花を咲かせていました。

また総会では、首都圏で松山のPRを強化しようと、会員およびゲストとして来場した夏目漱石にゆかりのある東京理科大学のイメージキャラクター「坊っちゃん」「マドンナちゃん」を「まつやま応援大使」に任命しました。



松山愛郷会会長・生田正治さん(右)と野志市長ら

東京事務所 ☎03・3262・0974・FAX 03・32639096